

令和 5 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	14	学校名	茨城県立常陸大宮高等学校						課程	全日制		学校長名		鈴木 猛			
教頭名	松代 寛										事務（室）長名		武石 恵子				
教職員数	教諭	26	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	5	実習教諭、実習講師、実習助手		4	事務職員	2	技術職員等	4	計	48
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科		3	6	4	6	3	8			10	20	3				
	機械・情報技術科		28	0	23	0	30	0			81	0	3				
	商業科		4	7	3	5	3	7			10	19	3				

2 目指す学校像

(1) 向上心を持ち自分に適した進路を実現できる学校
(2) 学習した知識や技能を基に資格等の取得ができる学校
(3) I C Tを効果的に活用できる学校
(4) ルールやマナーを大切にする学校
(5) 特別活動が充実した学校
(6) 地域に根ざした信頼される学校
(7) 働き方改革を推進する学校

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	○向上心を持ち、主体的に学習や学校生活に取り組み、協働して地域社会の発展に貢献できる人材
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	○3 学科の特色を生かすとともに生徒の幅広い学習ニーズに応え、I C Tを効果的に活用した学習活動とキャリア教育により、就職から大学進学まで生徒一人一人の多様な進路希望を実現
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	○学校や社会の規範を守り、多様性を尊重し認め合いながら日常生活を送ることができ、授業はもとより、学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に取り組む意欲のある生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	学習への取り組みが十分でなく、真の学力が身についていない。	生徒一人一人の基礎学力の定着を図れるか。 進学指導・課外指導の充実及び継続化を図れるか。
進路指導	コミュニケーション力に課題があり、自己の能力を過小評価し、目標に向かって頑張る姿勢を育む必要がある。	勤労観、職業観を 1 年次から育成できるか。外部講師等の効果的な活用により進路指導の相乗効果を上げられるか。就職先の開拓をよりすすめられるか。個別面談により生徒の進路希望の状況を常に把握できるか。
生徒指導	基本的生活習慣が確立されていない者がいる。規範意識の醸成が十分とは言えない。	生徒指導全般において、未然防止を目的とした生徒指導の展開を目指せるか。全職員の共通理解・共通認識による共通実践を目指せるか。
特別活動	部活動加入者が減少し、活動実績も停滞している。また、生徒主体の行事や活動への取り組みも不十分である。	生徒が主体的に取り組める学校行事の企画・運営ができるか。生徒会活動・学校行事・部活動の活動状況について、ホームページ等を利用し広報活動に努められるか。
教職員の勤務状況	在校等時間が非常に長くなっている教職員がいる。	業務量の適切な管理を行うことができるか。また、業務の効率化や超過勤務に対する教職員の意識改革を図り、1 か月の時間外在校等時間を 45 時間以内、1 年間の時間外在校等時間を 360 時間以内に収められるか。

5 中期的目標

(1) 学校設定科目の主旨を十分に活かし基礎学力の向上を目指す。また、ＩＣＴを効果的に活用し、生徒の興味関心及び希望進路に応じた指導の充実を図るとともに、特色ある学校づくりに努める。
(2) 学習指導、進路指導、生徒指導等を一層充実させるとともに、特別活動を活性化させ、知徳体バランスのとれた人材を育成する。
(3) 地域との密な連携協力を推進するとともに、本校から積極的な情報発信を通して、地域から支持され信頼される学校を目指し、本校への志願者数の増加に結びつける。
(4) 文部科学省や県教育委員会から示されている、業務の役割分担・適正化を図るとともに、教職員の勤務時間に関する意識改革や業務の改善に取り組み、時間外在校等時間の減少を目指す。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
教育課程の充実	① 【指導方法の改善や学校設定科目(シン発見)に係る取組の充実を通して、生徒の基礎学力の定着と向上、進路目標の達成に対応できる教育課程の構築を図る。】 ・設定科目の効果的運用のため、入学生の実情を検証し、現状に合わせた習熟度・少人数学習を行う。 ・各学科それぞれの特色が最大限に発揮できる教育課程の編成及び実現を図る。 ・多様な進路希望に応えられる、柔軟性のある教育課程を編成する。
学習指導の充実	② 【分かる楽しさが実感できる授業を展開することで、生徒の主体的な学びを引き出し、進路目標に応じた学力と専門性を身に付けさせる】 ・授業でＩＣＴを活用し、学習内容の理解促進を図り、学ぶ意欲の向上を図る。 ・確認テスト、実力テストなどで理解度を確認し、個に応じた指導を展開することにより、基礎・基本を確実に定着させる。 ・ＰＤＣＡサイクルにより、生徒の学力を適切に評価し、学習課題を明確にすることにより、学習意欲の向上を図る。 ・発展的な問題にも取り組ませるなど、大学等への進学希望を持つ生徒に対する個別指導を充実させることで、さらなる学力向上を図る。 ・生徒の実態に応じたＩＣＴ教材の研究、相互の授業参観、教科内の連携・研修等を通して、学習指導の工夫や質的向上を図る。
進路指導の充実	③【三年間を見通したキャリア教育を推進することで、生徒の望ましい勤労観・職業観を育成し、多様な進路目標の実現を図る】 ・聞く力、表現する力、進路実現のために必要な態度やマナーなどを身に付けさせる「３年間を見通した指導体制」を構築し、生徒のコミュニケーション力の向上を図る。 ・外部講師等の人材を有効に活用するとともに、インターンシップ・デュアルシステムや進路説明会に生徒を主体的に参加させることにより、進路意識の高揚を図る。 ・向学心を高め、計画的かつ継続的な課外授業を実施することで、大学進学にも十分対応できる学力を身に付けさせる。
生徒指導の充実	④【基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚に努めるとともに、人間としての在り方生き方に関して考察を深めさせることで、豊かな心の育成を図る。】 ・生徒面談、アンケート調査、家庭訪問、ホームルーム活動の工夫を通して生徒理解に努める。 ・頭髮・服装指導や遅刻防止等の徹底に努め、基本的生活習慣の確立を図る。 ・挨拶・マナーを確実に身に付けさせ、規範意識や社会性の育成に努める。 ・ボランティア活動を促し、人間としての在り方生き方を考えさせることで、社会の一員として主体的に生活することができるようにする。 ・特別指導を充実させ、問題行動の未然防止及び再発防止を図る。
特別活動の活性化	⑤【生徒会活動・部活動等の活性化を図り、充実感・達成感を味わえる、明るく活気ある学校づくりに努める。】 ・１年生に部活動入部を促し、学校の活性化を図るとともに、規律ある生活態度や自律性に富む生徒の育成を図る。 ・ホームルーム活動、委員会活動や生徒会活動の充実を図り、生徒一人一人が自主的・主体的に参加できるよう支援する。 ・地域の行事やキャンペーンにも積極的に参加するよう生徒を促し、地域との連携を図りながら生徒の活躍する姿を地域に発信していく。

キャリア・パスポートの積極的活用	⑥【学校内外での生徒の活動や学びのプロセスを振り返るキャリア・パスポートを作成し、その活用を通して、基礎的・汎用的能力を身に付けさせる。】 ・授業や学校行事、部活動等の様々な体験や学びの中において目標を設定させ、振り返り・見直しを図り、「自分らしい生き方」を模索できるようにする。 ・地域社会や企業との連携を図り、学ぶことや働くことの意義について考えさせ、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを持てるようにする。
地域連携の推進	⑦【地域との密な連携と交流を推進し、「出番づくりプログラム」に係る生徒の活躍の機会を拡げるとともに、生徒が活躍する姿を積極的に発信することで、地域から信頼され、期待される活力ある学校を目指す】 ・ホームページの充実を図り、保護者等や地域、中学校等への積極的な情報の提供に努める。 ・学校外からの声も積極的に取り入れ、学校・家庭・地域社会が相互に連携・協力した教育を推進する。
働き方改革の推進	⑧【業務の役割分担の適正化、ＩＣＴの導入を図るとともに、教職員の勤務時間に関する意識改革や業務の改善を進め、時間外在校等時間の減少を目指す】 ・業務の役割分担（基本的には学校以外が担うべき業務、学校の業務だが必ずしも教師が行う必要のない業務、教師の業務だが負担軽減が可能な業務）を見直し、教員の負担軽減を図る。 ・勤務時間の管理や適正な勤務時間の設定（勤務時間の把握、登下校指導・部活動・学校の諸会議等の適切な時間設定、学校閉庁日の設定など）を行い、ＩＣＴ教材の共有化を進め、勤務時間に関する意識改革と時間外勤務の抑制を図る。
授業改善の推進	⑨【「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点を実現した生徒たちの姿を念頭に置き、その姿に近づけるためにどのような授業の工夫ができるのかを追求していく。】 ・授業について全職員で協議する場を設定することにより、一人一人が授業改善にかかわる具体的な方策を出し合い、他教科から学ぶ機会を得る。 ・「身に付けさせたい力（目的）」を意識した上で、授業の「ねらい、課題、発問、板書、まとめ、振り返り」など、各場面の質的向上を図る。 ・生徒や他の職員の声、評価等をもとに日々の授業を振り返り、目指す授業像を描き、改善策を立てる。 ・教科・領域や使用する教材、生徒の実態に応じて、適当な ICT 機器を活用するなどして、より多様な授業形態の実践を図る。 ・指導計画、教材研究、教授資料など、共有化を図り、他の教員の効果的・先進的な取り組みを学び、自身の授業改善に活かす。 ・生徒による授業評価（４段階）において、授業満足度（KPI）3.4 以上を目指す。